

1. 農林水産直売所「千菜市」^{せんじゃーいち}で、こだわり農産物を販売 ～ 有機農業研究会の活動～

1) 組織概要

「千菜市」は、昭和63年に七浦地区の女性たちが地域活性化を目指し、テントで始めた朝市が母体である。

平成4年に、ガタリンピックで賑わう「七浦海浜スポーツ公園」内に、「道の駅鹿島」として物産館、レストランとともに、常設の直売所を開設した。

さらに、「千菜市」開設と同時に、平成4年、地域環境を大切に思う農業のあり方と農産物の流通を考えて「有機農業研究会」を結成した。

また、事務局を「千菜市」内に置き、「千菜市部会」と「有機農業研究会」が車の両輪となって地産地消活動による地域振興に寄与している。

所在地 鹿島市大字音成

農林水産直売所「千菜市部会」

代表者：江頭京子

構成員：150戸

(うち非農家20戸、その他17戸)

有機農業研究会

代表者：中村和喜

構成員：23人

野菜部 8人 *重複加入

果樹部 10人 有り

花卉部 4人

水稻部 2人

堆肥部 8人

* J A S「有機農産物」認証農家 2人

2) 有機農業研究会の取組みと特徴

現地研修や土づくり講習会、先進地視察等を通じて、会員の研鑽に励み、有機・減農薬栽培による農産物の生産・販売に努力している。

なお、「千菜市」内に「こだわり農産物コーナー」を設けて、新鮮・安全・安心な農産物のPR活動を行っている。

(1) 栽培管理

土づくり

会員のほ場には、地域内の畜産農家で作った堆肥の利活用を促進している。この堆肥は、天然リン酸、土壌微生物資材が混和され、有効菌の高い堆肥として、たまねぎ栽培の覆土にも多く活用されており、鶏糞とバークを混ぜた完熟堆肥も利用している。

また、これらの土づくり資材を使って、畜産堆肥や米糠と混ぜ、一年間熟成させた自家堆肥も作り利用している。

化学肥料

前述の堆肥を活用し、化学肥料は、極力使用していない。

減農薬への取組

完全無農薬を実践する農家も出ており、会員の多くは、減農薬栽培を目指して努力している。

(2) 出荷・流通

地元農協への系統出荷を基本とし、「千菜市」への直販を行っている。こだわり玉葱(無農薬・有機栽培)は、「千菜市」を通し、事務等の手続き面等農協の協力を得ながら、小売店への販売も行っている。

(3) 地域内保育園児による農業体験及び消費者との交流

地域の特産品である「こだわり玉葱」のPRと農業体験を通じた「食育」を目指して、平成13年度より地域内の3保育園による玉葱づくりの体験学習を支援し、子供たちとのふれあいによる交流を実施している。平成14年度には、サツマイモづくりの体験学習も行った。

また、「消費者の声を聞く会」や地域住民に呼びかけて視察研修を開催している。

このような活動をとおり会員の安全・安心な農産物生産への意識を高めていったことから「信用ある農産物」を消費者に届けたいと2戸の野菜農家がJASの「有機農産物」の認定を受けた。



保育園児によるタマネギづくり体験交流

3) 関係機関・団体、地域の支援等

区長会や女性・青年・農・漁・商など地区内のあらゆる組織で構成する「七浦地区振興会」(昭和61年10月設立)のメンバーとして地域の文化・産業をリードする活動に参画している。

また、地域住民が出資して設立した「株式会社 七浦」(平成3年12月設立)では、「千菜市」の支配人が役員として、運営に当たっており、市、JA等の関係機関を始め、異業種組織からの支援や連携も十分図られている。

4) 今後の方向

有機農業研究会が中心となり、地域活動として有機資源(生ごみ、河川のヨシ、家畜糞尿等)のリサイクルシステムを実践していくとともに、有機研究会のネットワーク化を進めたいと考えている。

また、「安心・安全な食生活」の拠点として「千菜市」を位置づけ、有機栽培を主体とした農産物を消費者に提供するとともに、子供たちを含めた農業体験等による農業・農村の情報発信を展開し、生産者と消費者の「顔の見える関係づくり」の推進を目指している。



「有機農業研究会」の現地研修